

さま イエス様

かみ にんげん 神であり 人間でもある

さま
イエス様は ことばです。そして、さいしよ 最初から かみさま 神様の
いちぶ 一部でした。

はじ 「初めに、ことばがあった。ことばは かみ 神と はじ ともに
あった。ことばは かみ 神であった。この方は、かた この方に はじ 初めに
かみ 神と かた ともに おられた。すべてのものは、かた この方に
よって つく 造られた。造られたもので、かた この方によらずに
できた ひと ものは一つもない。」 (しんかいやくせいしよ 新改訳聖書、ヨハネの
ふくいんしよ 福音書 1:1-3)

かみさま 神様の こ 子である イエス様は、さま 赤ちゃんとして
この世に よ 来られました。つまり、かんぜん 完全に
にんげん 人間に にんげん なられたのです。けれども、人間で
ありながら、かみさま 神様でも ありました。

ひと
「ことばは 人と なって、
わたし 私たちの あいだ 間に す 住まわれた。」
しんかいやくせいしよ (新改訳聖書、ヨハネの ふくいんしよ 福音書 1:14)



イエス様は 人間の 体を 取って、
私達の 元へ 来られました。最初は
赤ちゃんとして 生まれ、成長して
子供になり、それから 大人に
なられたのです。

「イエスが 十二歳になった 時も、
慣例に従って 祭のために 上京した。」
(口語訳聖書、ルカによる福音書 2:42)
(この話の 一部始終は、[ルカによる福音書の 2:41-52](#)に 書かれています。)

天使は 羊飼達に こう 言いました。
「あなたがたは、幼な子が 布に
くるまって 飼葉おけの 中に 寝かして
あるのを見るであろう。それが、
あなたがたに 与えられる しるしである。」
(口語訳聖書、ルカによる福音書 2:12)

聖書に 書かれている イエス様の 生涯に
ついての 記録は、大人になってからの
出来事や、弟子達を 教えながら 過ごされた
時の ものが 中心になっています。



イエス様には、あなたや私と
同じように、つかれたり、お腹が
空いたりなど、私達と同じ、
人間としての必要がありました。

「朝早く、都に帰る途中、
イエスは空腹を覚えられた。」
(聖書協会共同訳聖書、
マタイによる福音書 21:18)

「イエスは旅に疲れて、
そのまま井戸のそばに座って
おられた。」(聖書協会共同訳聖書、
ヨハネによる福音書 4:6)

イエス様は亡くなって
よみがえった後、神で
あると同時に、引き続き
人間でもありました。

イエス様は2,000年も
前に亡くなられ、今は人間の
体で地上におられる訳では
ありませんが、それでも
人間であり、また神でも
あります。



わたしたち 私達は、イエス様が今でも人間であることを知っています。それは、
ひとたび亡くなられた後、人間の体のままよみがえって、ご自分に
従っていた女性達の前に現れ、その後弟子達の前にも現れたからです。

「女たちは、恐れながらも
大喜びで、急いで墓を立ち去り、
弟子たちに知らせるために
走って行った。すると、イエスが
行く手に立っていて、『おはよう』
と言われたので、女たちは
近寄り、イエスの足を抱き、
その前にひれ伏した。イエスは
言われた。『恐れることは
ない。行って、きょうだいたちに
ガリラヤへ行くように告げなさい。
そこで私に会えるだろう。』」
(聖書協会共同訳聖書、
マタイによる福音書 28:8-10)



「その日の夕方、弟子たちは、ユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸にはみな鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手と脇腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。」（聖書協会共同訳聖書、ヨハネによる福音書 20:19-20）

それが、イエス様についての素晴らしい真実です。つまり、イエス様は神であると同時に、人間でもあるということです。永遠に渡って、イエス様は神であり、人間でもあります。だからこそ、イエス様は私達の暮らしや困難を理解できるのです。イエス様は私達の必要が理解できるので、私達を助ける最善の方法もご存じです。

イエス様はいつでも私達を理解して下さり、大きな愛をもって、私達を愛情深く世話し下さると信じていましょう！

